

第3回 国立大学法人琉球大学上原地区キャンパス
跡地利用推進協議会議事要旨

日時：令和5年9月6日（水）11：00～12：00

場所：琉球大学医学部管理棟3階大会議室（現地＋WEBのハイブリット開催）

構成員：

- （西原町）総務部 與那嶺総務部長、建設部 呉屋建設部長
（西原町民代表）上原自治会 石原会長、棚原自治会 城間会長
（沖縄県）総務部 山内総務私学課長※オンライン参加（宮城 総務部長代理出席）、商工
労働部 砂川産業雇用統括監（松永 商工労働部長代理出席）、保健医療部 新
城保健衛生統括監（糸数 保健医療部長代理出席）
（沖縄総合事務局）経済産業部 多和田企業振興課長（中村 経済産業部長代理出席）
（学識経験者）小野教授（琉球大学工学部）、大城前琉球大学学長
（琉球大学）福治理事（上原キャンパス跡地利用担当）、大屋理事（キャンパス移転担当）、
筒井医学部長、移転推進本部 市川事務部長

【議事】

（1）今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて、資料2に基づき、事務局から説明があった。

（2）プレサウンディング調査結果について

プレサウンディング調査結果について、資料3に基づき、日本不動産研究所から報告があった。

（3）跡地利用推進計画（素案）について

跡地利用推進計画（素案）について、資料4に基づき、事務局から説明があった。

（4）その他

各委員と以下のとおり意見交換を行った。

（主な意見等）

〈議事（1）今後のスケジュールについて〉

○事務局

今回は実施方針（案）を示す予定としていたが、第2回の協議会以降、沖縄県、西原町と意見交換を進めていく中で、各者の状況が変化してきた。そのため、まずは

跡地利用推進計画案(素案)について内容を共有しながら議論を深め、実施方針に反映していきたいと考えている。なお、バイオ関連産業拠点構想の状況や、西原町のマスタープランとの齟齬も多少あると聞いているので、意見を頂きながら進めたい。

○委員

バイオ産業拠点構想を昨年度まとめた。産業施設には、インキュベーション施設だけではなく、工場等の生産施設を優先して整備することが必要との方針である。上原キャンパス跡地は住居系の用途地域の制限があり、工場系は誘致が出来ない。また、前回の会議にて発言のあった、西原町の文教地区としてのまちづくりの観点も考慮し、県としてこの場所での構想は現実的ではないと認識した。そのため、その他の工場系の地域で検討を進める方向に至った。

○委員

沖縄県の考えは理解しているが、本地区は文教ゾーンとして位置付けており、まちづくりの観点から工場は好ましくない。

〈議事（２）プレサウンディング調査結果について〉

○委員

資料３のプレサウンディングについて、薬学部の話しが上がっているが、内容についてお話し頂きたい。

○委員

今年の９月１日から国公立大学向けに公募をしている。締め切りは１２月８日で、１２月下旬に審査会を行い、選定後の来年に協定書を締結するスケジュールで進んでいる。

○委員

１校だけ手を挙げた場合の選定方法、薬学部整備のリミット、その背景を教えてください。

○委員

選定に関しては、１校だけだとしても審査会にて審査する。薬学部は令和１０年までには整備したい。その背景には、県で作成した指針の中で目標を令和１０年と定めており、また、国の特例措置の期限も令和１０年までとなっていることによる。

○委員

大学が選定された場合は、その大学の敷地内に薬学部を新設するといった考え方か。

○委員

詳細については、審査会にて選定した大学と詰めていく予定。

○委員

前回の協議会において、薬学部については全国的に定員未充足で抑制する方向の

話と、琉球大学単独では実施が厳しい話の2点課題が挙げられた。1点目は全国で沖縄県も含め、特例的に一部抑制の対象から外す動きがある。2点目は、沖縄県を巻き込んだ国公私の連携や、琉球大学単独ではない形で協力体制が整えば、手を挙げられる状況になる。ランニングコストも非常に掛かるため、その支援も必要となる。また、薬剤師会から薬学部設置の希望署名は集まっているが、財政的支援がないと琉球大学単独での実施は現実的に厳しい。内閣府が持つ振興予算での対応は可能か。

○委員

内閣府特別振興予算での対応は難しいと聞こえてきている。

〈議事（3）跡地利用推進計画（素案）について〉

○委員

既存建物で薬学部が使う可能性がある部分について、資料4の6頁の図中、③基礎講義実習棟、⑤臨床講義棟、⑥保健学科棟、⑧福利棟、⑨附属図書館医学部分館、⑩管理棟が挙げられる。また、薬学部進出は現在の方針1～方針5に合致すると考えている。

○委員

既存建物を居抜きで薬学部が使う場合、資料4の6頁～7頁における情報が不足していて薬学部の申請時に検討しえない。6頁の既存建物の概要に病床数、駐車場台数、教室数、敷地の区画割り情報等を加えて提示するなど、情報を増やした方が良い。具体的に企業に提案してもらう際は、提案の自由度を高めるためにも、前もって建物の面積等の詳細情報の開示・情報提供は必要。

○委員

情報は可能な限り開示・提供した方が良いと理解した。

○委員

昨年度までの会議では、跡地を一括活用か3ゾーン活用かといった考え方が出てきたが、今年度は両論併記ではなく、どちらかにしなければならないのではと考えている。一括活用はプレサウンディングだと広すぎる意見も上がってきているので、3つのゾーニングに収められていくのではと予測している。具体的な企業の選定は来年度以降のスケジュールになると思われる。

○委員

資料4の土壤汚染調査の状況について、情報の記載方法に関しては検討が必要。

〈その他の意見〉

○委員

今後行うサウンディングの際は、跡地周辺エリアを文教ゾーンと設定している視点を踏まえ努力して頂きたい。町としても琉球大学の研究機能の成果が何らかの形で就業といったかたちで反映できればと思う。また、琉球大学が設立されてからの40年でアパート、共同住宅等の産業が発達していることから、跡地活用によってこれら産業の空洞化がしないよう、配慮したサウンディングを心掛けて欲しい。

○事務局

次回の協議会は12月頃を予定している。